

徹 ・ 底 ・ 分 ・ 析 ・ !

年度別

歯科衛生士 国家試験問題集

歯科衛生士国試問題研究会／編

2022

年版

[第26回～第30回]

医歯薬出版株式会社



傾向と対策

◆ 出題数にポイントをおく！

各科目の出題数は公表されていませんが、これまでの国家試験問題を分析した結果、また、平成29年の出題基準の内容から、おおむね表1のように予想されます。

表1 科目別出題数

科目名	出題数
一 人体の構造と機能	7～9
二 歯・口腔の構造と機能	7～9
三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進	16～18
四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	30～32
五 歯科衛生士概論	5～7
六 臨床歯科医学	53～55
七 歯科予防処置論	28～30
八 歯科保健指導論	34～36
九 歯科診療補助論	28～30

出題数が多い科目は得点源になります。逆にいえば不得意となると得点が大幅に減るので、重点的に学習しておくとういでしょう。また、出題数がほかより少ない科目についても、まんべんなく学習する必要がありますが、より学習の能率をよくするためには出題傾向をつかんでおくとう効果的です。

【学習法アドバイス】 答え合わせをした結果を表2 (p.14～) 中の番号をぬりつぶすなどしてわかるようにし、不正解の多かった範囲を重点的に復習して、習熟するのに役立てましょう。

◆ 難易度にポイントをおく！

表3 (p.42) は各年の全問題の難易度一覧表です。難易度のランクは、☆=比較的やさしい、☆☆=ふつう、☆☆☆=比較的むずかしい、となっています。

比較的難易度が中程度の問題が多いことがわかります。つまり、基本的には授業と教科書を理解していれば合格ラインに達するという事です。日々の学習を大切にしましょう。

【学習法アドバイス】 答え合わせをした結果を、○×で表3中の問題番号に該当する☆印に記します。

表 3 難易度一覽表-第 30 回 (2021 年)-

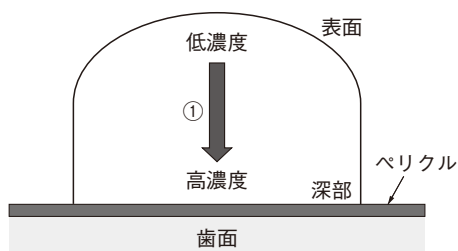
午前				午後											
番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆
1	☆			56		☆☆		1	☆			56	☆		
2		☆☆		57		☆☆		2		☆☆		57			☆☆☆
3		☆☆		58	☆			3	☆			58		☆☆	
4	☆			59		☆☆		4		☆☆		59		☆☆	
5		☆☆		60	☆			5		☆☆		60			☆☆☆
6			☆☆☆	61		☆☆		6		☆☆		61		☆☆	
7			☆☆☆	62		☆☆		7		☆☆		62		☆☆	
8	☆			63		☆☆		8	☆			63		☆☆	
9	☆			64	☆			9		☆☆		64		☆☆	
10		☆☆		65		☆☆		10		☆☆		65		☆☆	
11		☆☆		66		☆☆		11			☆☆☆	66		☆☆	
12		☆☆		67			☆☆☆	12		☆☆		67		☆☆	
13		☆☆		68		☆☆		13		☆☆		68		☆☆	
14	☆			69		☆☆		14		☆☆		69		☆☆	
15			☆☆☆	70		☆☆		15		☆☆		70		☆☆	
16	☆			71		☆☆		16		☆☆		71		☆☆	
17		☆☆		72	☆			17	☆			72	☆		
18	☆			73			☆☆☆	18			☆☆☆	73			☆☆☆
19			☆☆☆	74		☆☆		19	☆			74	☆		
20		☆☆		75		☆☆		20		☆☆		75		☆☆	
21		☆☆		76	☆			21			☆☆☆	76		☆☆	
22		☆☆		77		☆☆		22		☆☆		77			☆☆☆
23		☆☆		78	☆			23		☆☆		78			☆☆☆
24	☆			79		☆☆		24	☆			79		☆☆	
25		☆☆		80	☆			25		☆☆		80	☆		
26		☆☆		81		☆☆		26		☆☆		81		☆☆	
27		☆☆		82		☆☆		27			☆☆☆	82		☆☆	
28			☆☆☆	83	☆			28			☆☆☆	83		☆☆	
29		☆☆		84		☆☆		29		☆☆		84		☆☆	
30			☆☆☆	85		☆☆		30		☆☆		85			☆☆☆
31		☆☆		86		☆☆		31		☆☆		86		☆☆	
32		☆☆		87		☆☆		32		☆☆		87		☆☆	
33		☆☆		88	☆			33	☆			88			☆☆☆
34	☆			89		☆☆		34		☆☆		89		☆☆	
35		☆☆		90	☆			35		☆☆		90		☆☆	
36		☆☆		91		☆☆		36		☆☆		91	☆		
37			☆☆☆	92	☆			37	☆			92		☆☆	
38	☆			93		☆☆		38			☆☆☆	93		☆☆	
39	☆			94	☆			39			☆☆☆	94		☆☆	
40		☆☆		95		☆☆		40	☆			95		☆☆	
41	☆			96		☆☆		41		☆☆		96		☆☆	
42			☆☆☆	97	☆			42			☆☆☆	97		☆☆	
43		☆☆		98	☆			43	☆			98		☆☆	
44			☆☆☆	99	☆			44			☆☆☆	99		☆☆	
45			☆☆☆	100		☆☆		45	☆			100		☆☆	
46		☆☆		101	☆			46		☆☆		101		☆☆	
47		☆☆		102	☆			47			☆☆☆	102		☆☆	
48		☆☆		103	☆			48		☆☆		103		☆☆	
49		☆☆		104	☆			49		☆☆		104	☆		
50		☆☆		105	☆			50		☆☆		105	☆		
51	☆			106		☆☆		51	☆			106			☆☆☆
52	☆			107		☆☆		52		☆☆		107		☆☆	
53		☆☆		108			☆☆☆	53			☆☆☆	108		☆☆	
54		☆☆		109		☆☆		54	☆			109		☆☆	
55	☆			110		☆☆		55		☆☆		110		☆☆	

d ワルファリンカリウム

〔問題16〕 唾液の機能と成分の組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。

- a 緩衝作用——分泌型 IgA
- b 抗菌作用——リゾチーム
- c 潤滑作用——アミラーゼ
- d 消化作用——ムチン

〔問題17〕 プラーク内部の物質の濃度分布を模式図に示す。



①に該当するのはどれか。2つ選べ。

- a 酸素
- b 栄養素
- c 水素イオン
- d 微生物代謝産物質

〔問題18〕 舌清掃で抑制効果が期待されるのはどれか。2つ選べ。

- a う蝕
- b 口臭
- c 歯周病
- d 誤嚥性肺炎

〔問題19〕 アタッチメントレベル測定の基本となるのはどれか。2つ選べ。

- a 歯肉辺縁
- b 歯間乳頭頂
- c セメント-エナメル境
- d 歯冠補綴装置のマーゼン

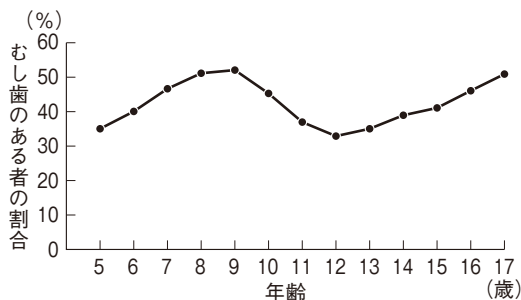
〔問題20〕 歯周病の第二次予防はどれか。2つ選べ。

- a 歯周病検診
- b 食生活指導

c 歯周外科治療

d 口腔機能回復治療

〔問題21〕 学校保健統計調査(平成30年)による、むし歯のある者の割合の年齢変化を図に示す。



グラフがN字曲線を呈する要因はどれか。1つ選べ。

- a 飲食習慣
- b 乳歯の交換
- c 歯口清掃習慣
- d フッ化物応用

〔問題22〕 地域歯科保健活動でアウトカム評価の対象はどれか。2つ選べ。

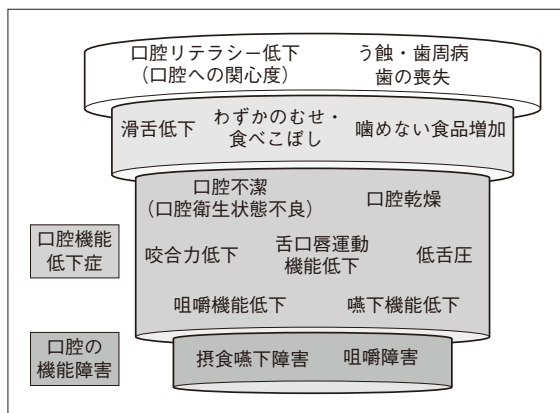
- a 歯科医療費の減少
- b 口腔のQOLの向上
- c 歯科健診の実施回数
- d 担当人員の活用状況

〔問題23〕 感染症予防で感染経路対策はどれか。2つ選べ。

- a 予防接種
- b 患者の隔離
- c マスクの着用
- d 使用器具の滅菌

〔問題24〕 大気中CO₂濃度の上昇が原因となるのはどれか。1つ選べ。

- a 酸性雨
- b 森林の減少
- c 地球温暖化
- d オゾン層の破壊



(老年歯学, 第33巻第3号, 2018.)

㊦ 29 回午前問題 93

問題60 a ☆

解説 写真の男性は鼻腔から経鼻経管栄養のためチューブが挿入され、気管上の皮膚に気管切開カニューレが装着されている。脳梗塞による意識障害や嚥下機能障害により口から栄養を摂取できない場合、鼻から挿入した胃チューブを胃内に留置して栄養剤を注入する経鼻経管栄養を行い、水分や内服薬も同じ方法で摂取する。気管に貯留した痰や浸出液は、呼吸困難の原因となるため、カニューレから吸引チューブを挿入して気管吸引を行う。

問題61 b, c ☆☆

解説 嘔吐しにくい体位はファーラー位とセミファーラー位である。ファーラー位は下肢を水平にして上半身45度ほど起こした状態で、セミファーラー位は上半身を15~30度ほど起こした状態である。仰臥位は仰向けに横たわっている状態で、左を下にした側臥位も左側面を下にして横たわった状態である。患者は胃瘻増設中であり摂食嚥下機能障害があるため、横たわった状態だと注入した栄養が逆流し、気道閉塞や誤嚥の危険がある。

㊦ 27 回午前問題 95

問題62 b, c ☆☆

解説 口腔清掃時の写真において矢印で示されているのは、割りばしにガーゼを巻いた器具である。開口保持と視野確保のために使用される。脳性麻痺児は原始反射が消失せず残存する。このうち咬反射が残存すると、歯ブラシをかんでしまい、ブラッシング困難と

なるため、本器具をかませながらブラッシングを行う。簡易的な開口器ともなるため、前歯部に使用した場合、歯の外傷(歯冠破折)の危険がある。また、体動がある場合、口唇を巻き込むことがあるため口唇の挫創に留意する。この装置では防湿や舌突出防止は行わない。口腔清掃時には防湿の必要はなく、唾液や洗浄後は適宜吸引する。舌に対しては歯科用ミラーで舌を圧排して視野を確保する。

㊦ 28 回午後問題 83 29 回午前問題 62

歯科予防処置論

問題63 c ☆☆

解説 フッ化物の代謝では、経口摂取されたフッ化物のうち、大部分は胃および小腸などの消化器系から吸収され、血液に入り各組織に運ばれるが、摂取後約10分で血中濃度が上昇し始め、11~15時間後には元のレベルに戻る。その後、フッ素の大部分は腎臓を介して尿として排出されるが、汗腺を介して汗としても排出される。蓄積されたフッ素のほとんどが硬組織(主として骨格系)に沈着する。吸収されたフッ素の約10%は体内に蓄積される。

問題64 c ☆

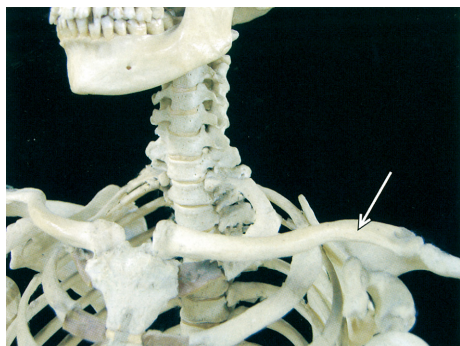
解説 歯科衛生士の業務である歯科予防処置の内容は、歯科衛生士法第2条に規定されている。歯石除去後の歯面清掃は、スケーリングやSRPによってできた粗雑な歯面を滑沢にすることや、残留している細かな歯石などを除去することを目的として歯面研磨器具を用いて行う。う蝕活動性の診断は、診断行為であることから歯科医師の業務である。摂食嚥下機能の指導は、歯科衛生士の業務ではあるが歯科保健指導である。歯周ポケット内への薬物塗布は、歯周ポケット内に抗菌物質製剤を投与する処置であり、歯科医師の業務である。

㊦ 26 回午後問題 67

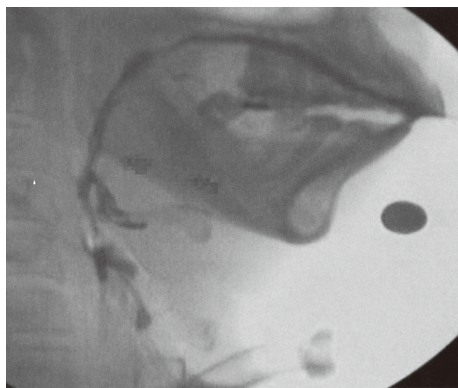
問題65 b ☆☆

解説 63歳の女性は歯の動揺を主訴としている。写真は上顎の左右側方歯群前歯部のエックス線写真で、垂直的骨吸収が認められ、歯周病が疑われる。2型糖尿病はインスリン分泌低下やインスリン抵抗性をきたす素因を含む複数の遺伝的因子、過食、運動不足、肥満、ストレスなどの環境因子に加齢が加わり発症する疾患である。糖尿病は歯周病のリスクファクターであり、歯周病がリスクファクターにもなり得る全身疾患

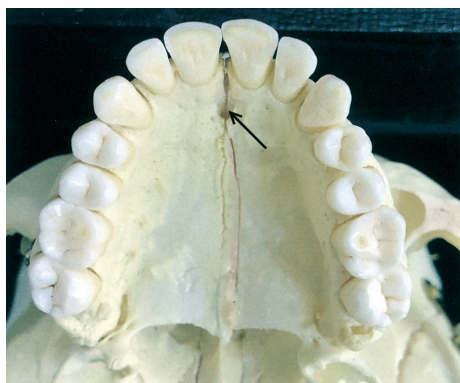
第 30 回 (2021 年) 写真



午前 No. 1 (問題 1)



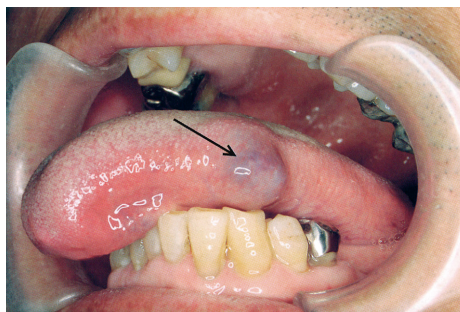
午前 No. 4 (問題 37)



午前 No. 2 (問題 3)



午前 No. 5 (問題 39)



午前 No. 3 (問題 10)



午前 No. 6 (問題 40)